

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2391200074		
法人名	株式会社ハルス		
事業所名	グループホームはるすのお家みなみ		
所在地	愛知県名古屋市長区明円町210-1		
自己評価作成日	平成28年2月28日	評価結果市町村受理日	平成28年4月27日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉総合研究所株式会社		
所在地	愛知県名古屋市東区百人町26 スクエア百人町1階		
訪問調査日	平成28年3月25日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> <li>・オープンキッチンになっており、料理作りに参加しやすく、皆で一緒になって行っています。料理を作っている姿も見え、和やかな雰囲気を大事にしています。</li> <li>・日中は玄関やリビングの施錠をしておきませんので、開放的で皆さん伸び伸びと生活をしています。</li> <li>・独自のブログがあり、全員の写真やコメントを載せ、御家族様より好評を得ています。</li> <li>・昨年より、狭い所ですが耕し土を入れ、野菜作りをしており、皆で収穫を楽しんでいます。</li> <li>・介護理念の「その人らしく生活を送る」を支援し目指している。</li> <li>・地域の行事に参加したり、地域の方々がホームで大正琴や踊り等披露して頂き交流を深めています。</li> </ul>
---

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>利用者と職員、また職員同士の関係が良好で、まず会話とスキンシップを大切にという管理者の考えのもとで、明るく、会話や笑い声が絶えない事業所である。また、利用者の今ある能力、今できることをなるべく減らさない、という支援を心がけ、料理や家事にその人なりにできる役割を担ってもらい、動きが悪くなって例えば箸が持てなくなってきたら職員が手を少し支える、とかスプーンに変えてもなるべく自分で食べてもらおうとか、手の硬直が強くなってきたら目を見ながら声掛けをしつつ手を握って屈伸するなどの工夫に努めている。介護度が上がっても全体でのバス遠足や外出レクリエーションを行い、利用者が楽しむ顔が事業所便りの写真からもうかがえる。家族からの提案で事業所の庭に小さな畑を作り、野菜を作ったがそれはとても利用者の楽しみとなった。</p>
--

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

## 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価
			実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>				
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は玄関に掲示しており、入社時、会議、勉強会時に唱和している。その人らしく生活を送る、共に生活を送る事を基本とし、日々のケアにつなげています。	理念を職員は理解しており、朝の申し送り時や月1回のカンファレンスや勉強会で再確認しており、その人らしく生活を送るための支援に努めている。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入しています。町内会主催の行事に参加したり、町内の方々が、踊り、大正琴等披露してくれます。散歩中ご近所の方々に挨拶を交わし、馴染みの関係を築くように努めています。	町内会に加入し、地域の行事や情報を得、盆踊りなどに参加している。また、事業所の行事を地域に知らせて、参加を呼びかけている。近所の人から食材の差し入れを貰ったり、ボランティア訪問が来たり、中学の職場体験を受け入れたりしている。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	民生委員より相談を受ける事があるので、その都度対応をしている。	
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者状況、取組事項、今後の行事予定など報告をしています。その中で意見や要望が出て来るので、日々のケアでは、反映させるように努力をしている。	年に6回定期的に運営推進会議を開催し、町内会長や民生委員、利用者家族の参加がある。事業所の取組みや行事の報告をし、質問に答えることでグループホームや支援について理解を深めてもらっている。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険の手続きや提出書類は速やかに提出しています。催し物の依頼があれば協力し、市町村開催の講習会も参加しています。また外出レクでは、車椅子も借りており連携に努めている。	書類手続きなどで担当者と連絡をとっている。市や社会福祉協議会主催の外部研修に職員は参加している。また、福祉祭に利用者の作品を展示している。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	夜勤者が一人になる時以外は施錠はしておらず、玄関からリビングから自由に中庭出ています。勉強会や講習会に参加をして、身体拘束をしないケアに取り組んでいます。	本社研修に身体拘束の講習もあり、出席した職員は事業所にもどり復命講習をすることで他の職員に伝えている。度重なる骨折などでやむを得ず動きの制限をかけるような場合、必ず家族と話し合い同意書を貰うと共に拘束解除にむけての話し合いも職員間で行っている。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修や講習会に参加をして、事業部へ持ち帰り皆で共有しています。虐待が見過ごされないようお互い気をつけ防止に努めています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修や講習会に順次参加をして、皆で共有しています。それらを活用できるように準備をしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結、解約や改定等の際は、利用者や家族が不安を持たないように、十分な説明と理解・納得を図っています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者からは日々の会話より意見要望を聞き取っている。家族は来所の際意見要望を聞いています。また遠方の方は、意見書を郵送し返信用の封筒で送り返して頂いています。こうして出た意見要望は会議の際、話し合い反映させています。	日々の生活支援の中で何よりも会話を重視し、その中から利用者の要望を聞きとっている。家族の訪問時には必ず職員や管理者が意見や要望を求めている。今年度は小さな畑を作ることを提案され実施し、利用者の楽しみにつながった。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日常の生活の中で、意見要望を聞き取り、本社に伝え反映できるようにしています。	支援について、職員は浮かんだアイデアをリーダーや管理者へ伝え、実行できることはすぐ取り入れている。待遇についても伝えやすい環境である。職員の様子で気にかかる点があれば、管理者は個別に面談を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力や実績の把握に努め、給与水準、資格手当等見直しをし、向上心ややりがいを持って働けるように、職場環境・条件の整備に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内では月1回のテーマに沿った勉強会があり事業所より一人参加し、持ち帰り他職員に勉強会を開いています。外部は社協開催の研修を随時受講し、働きながらトレーニングしていくことを進めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修会や勉強会に参加でき、同業者の方々と話ができることで、サービスの質の向上につながっています。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人が困っていること、不安に思っている事に耳を傾けながら、安心して生活が送れるように、関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族等に安心して頂けるように、困っていることや不安に思っている事に耳を傾け、信頼関係を築いています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	話を進めていく中で、本人と家族等が、まず必要としている支援を見極め、色々な面で相談に乗り、対応に努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護理念でもありますが、生活を共にする事を第一に考えており、支え合う関係を築いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	現在の状況を伝えたり、相談をしたりと、家族にも参加して頂き、共に本人を支えて行く関係を築いています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人や場所は、会話をする事で関係が途切れないようにしています。また家族にお願いして、知人や仲間が訪ねて来るように声掛けをしています。	利用者の友人が来訪したり、年賀状が届いたりしている。家族と冠婚葬祭に出かける人もいる。また、事業所での生活の中で、近所の喫茶店や公園が新しい馴染みの場所となっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の個々の関係を把握して、席替えをしたり、ソファに誘導したり、職員が中に入ったりと孤立しないように、利用者同士が関わり合いを持てるように支援をしています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院をしていたら定期にお見舞いに行っています。様子をお電話したり、何かお手伝いをする事はないか、相談や支援に努めています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	会話を交している中で、本人の希望や意向を聞き取った時は、申し送りノートで共有しています。困難な場合は、ミーティングで検討し、本人本位に添えるように努力をしています。	職員は利用者への声掛けやスキンシップを大切にした介護に徹しており、会話を通じて希望や想いをくみ取っている。職員同士の会話やカンファレンスで情報は共有され、マンツーマン対応の入浴時のつぶやきも貴重な情報源となっている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族等、ケアマネより今までの暮らし方や生活環境、これまでのサービスの利用経過を聞き取り把握に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	生活を送る中で、一人ひとりの過ごし方や心身の状況、有する力を把握し、今何ができるのかを見極めています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意向を踏まえ、その人らしく生活を送れるように計画書を作成しています。定期的見直し以外でも身体状況に応じて、本人、家族、職員と話し合い、現状に即した計画書になっています。	家族と面会できない場合は郵送で意見書を送付し、思いを把握している。職員は担当制をとり、利用者個々が「その人らしく生活できる」よう現状に即した計画の立案に努めている。完成した介護計画はいつでも立ち戻れるようフロアにある記録にファイルされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で共有しながら受洗や介護計画の見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、マッサージ、ショッピング、喫茶や食事会に行ったりと柔軟なサービスに取り組んでいます。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	すぐ近くに地域に密着した喫茶店があり、時々顔を出し、地域の方々と挨拶をしています。近くに公園が3箇所、緑道、天白川が流れており、緑、花、鳥等自然に触れ楽しく生活を送っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医は月2回の往診と24時間対応しております。月1回の眼科、月2回の歯科往診と適切な医療を受けられるように支援をしています。	入所時の説明で納得の上、現在は全員月2回協力医の往診を受けている。定期受診以外で医師の指示があれば他科受診は職員が対応している。状態により回数は変わるが訪問歯科や訪問眼科治療も可能で、規定に合致すれば、訪問マッサージも受けられる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師との連携はありませんが、体調の変化は提携医に連絡、指示を頂き、薬剤師も相談に乗ってくれるので、的確な支援ができています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に介護サマリー・提携医より診療情報提供書を提出しています。面会に何度か出かけ、早く退院できるように、先生・看護師・相談員に相談し、関係づくりに努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に医療行為が発生した場合は、退去となることを伝えていきます。ホームでの生活が1日でも長くなるように提携医、本人、家族、職員等で話し合い、本人や家族の意向に添うようにしています。	看護師連携がなく、24時間点滴、胃瘻、痰の吸引が必要時には退去という事業所方針があり、看取りの経験はない。入院時、病院ソーシャルワーカーや提携医、各種福祉サービス関係者と連携のもと、本人や家族と退去後の方針を共有し援助している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会に参加したり、ミーティング時に話し合いをしており、応急手当や初期対応はできるようにしています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	利用者参加で年2回訓練を行っています。南消防署職員の指導の下、避難方法や初期消火等、職員は身につけています。民生委員、隣の喫茶店に連絡を入れれば、地域の方々が応援に来てくれるようになっています。	11月は屋間2階での火災想定で車いす利用者もベランダまで避難訓練に参加している。夜間時は職員がシミュレーションにて避難方法を周知しており、地域連携で消防団との援助協力体制が築かれている。2階に水、おかゆ、レトルト食品、衛生用品等の備蓄がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	勉強会の参加やミーティング時に話し合いを行ったりと、一人ひとりに寄り添うように心がけています。また職員同士注意を仕合、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけをしています。	法人接遇研修での内容を事業所内勉強会で周知徹底している。日々の介護では「笑顔とやさしさが一番」と管理者は職員に話し、言葉遣いは気づいたら注意をし、繰り返しの意識づけを図っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	信頼関係が出来ており、本人の思いや希望を表しやすくなっています。また最終決定は本人に行って頂くように働きかけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活を大切にし、調理の手伝い、レク参加、体操、散歩、お喋り等その人に合わせた生活を送っています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1回美容が来るのを楽しみにしています。カット、カラー、パーマと自分で美容師と相談をしながら決めていきます。またその日に着る服を本人と一緒に決めていきます。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に食事の準備や後片付けを楽しんでいます。日々会話の中で、食べたい物や好物を聞いて、メニューに取り入れています。	食事作りの皮むきや野菜の下処理、調理、下膳、食器洗い等できることを職員と一緒に参加している。自家製野菜のナスやキュウリを食材に使ったり、秋は焼き芋を楽しむなど季節感を味わっている。また、喫茶や外食を楽しむこともある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分量は1日トータルで記録に残しています。一口大にしたり刻みにしたり、主食、副食の量を加減したりとその人に合った支援をしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きをしています。その人に合わせて、歯ブラシ、スポンジブラシ、ガーゼ等、本人の力に合わせた口腔ケアをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中は声掛けをし、皆さんトイレで排泄をしています。一人ひとりの排泄パターンを把握して、排泄前にトイレに誘導できるように心がけています。	車いす利用者も立位等での介助のみで、ほとんどの人がトイレでの排泄習慣が出来ている。失敗時は、周りに気づかれないよう職員が素早く対応している。夜間も一人ひとりのペースを尊重し、声掛けや見守りで支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動や水分量、食事に食物繊維が多い物を取り入れるように工夫をしています。提携医、薬剤師、マッサージの先生に相談しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	個々に合った入浴を楽しめるようにしています。菖蒲湯や柚子湯等、季節に合った入浴も楽しめます。清拭や部分浴、足浴などの支援も行っています。	ほぼ1日おきで入浴している。拒否される人には声掛けの工夫やタイミングをずらして対応しており、長期化した場合は家族の協力を得て支援している。2人介助体制でも難しい場合は、1階のリフトを使用して入浴している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	散歩をして日光に当たったり、ソファでゆったりしたり、布団を干しシーツを洗ったり等安眠につながるよう支援をしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬票で副作用、用法、用量については理解しています。薬剤管理をスギ薬局薬剤師が行っており、気をつけなければいけない事や症状変化の確認の指示があり、安心しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりが張り合おを持って生活が送れるように、いつも話し合っています。晩酌をする方、絵を好んで書いている方、編み物等楽しく生活を送っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	天気の良い日は散歩に出かけ、徒歩で近くの喫茶店、ケーキ屋さんに行きます。またタクシーでアピタやイオンに行き、年2回はバスでいちご狩りや花見に行きます。人出がない時は、家族や地域の方がお手伝いしてくれます。	日常的に職員とマンツーマン、または二人で、車椅子の人も含めて事業所周辺を散歩したり、喫茶店、コンビニへ出かけている。フロア毎にタクシーを利用してアピタでの買い物や外食を楽しんだり、本社のバスで「アクア・トぎふ」や今春には「なばなの里」へと集団での遠出も実施している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日用品を買ったり、アピタなどで衣類を買ったりします。本人はお金は持っていませんが、一緒に支払いをしています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙が来た時は、読めない方には一緒に読んだり、返事を書くお手伝いをしています。電話はいつでも使えるので、掛けて欲しいと言われた時は、その都度対応をしています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	外出先で撮った写真や、利用者が作った作品を飾ったり、季節のお花を飾ったりしています。また家族より頂いた雛人形や五月人形を飾り、季節感を出しています。	玄関へのアプローチには色とりどりの季節の花々のプランターが飾っており、玄関正面の立派な五月人形で季節を感じることができる。リビングには利用者が作成した貼り絵や各種折り紙作品、外出時の写真があり、オープンキッチンからは全体の様子を見回すことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやサイドテーブルを置き、独りだったり、気の合った者同士語り合ったり、リビングより中庭に出たり、花に水をやったりと思い思いに過ごしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた物の持ち込み、筆筒や鏡台や仏壇、家族の写真や小物が飾られており、居室は利用者にとって心地よく過ごせるように工夫をしています。	使い慣れた家具や仏壇の持ち込みも可能で、カーテン等の布製品は防災との規定がある。暖簾をかけている人もいて、家族写真や好みの物が設置され、安心して居心地よく過ごせる空間となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーになっており、必要な箇所には手摺が付き安全な生活が送れるようになっています。階段を使える方は階段を使用し、トイレは分かりやすいように、張り紙をしたり等工夫をしています。		